

終わりは始まり

さて、先日は卒業式でした。お忙しい中ご出席いただいたご来賓や保護者の皆さまにお礼申し上げます。立派な卒業生の姿でした。おかげさまで、一人一人名前を読み上げて、顔を見ながら証書を手渡すことができました。式辞でも卒業生に向けた思いの丈を伝えることが出来ました。在校生を代表して六年生を送りだしてくれた五年生の態度もとても立派でした。そんな卒業生や五年生の頼もしい表情を見ながら、嬉しい気持ちで一日を終えたのでした。

翌日は在校生の修了式。修了証を各学年代表児童に手渡しました(左記)。立派な態度でした。

- 一学年代表 三組 田中 希歩 さん
- 二学年代表 一組 飯星 創心 さん
- 三学年代表 四組 村上 結愛 さん
- 四学年代表 三組 林 美織 さん
- 五学年代表 二組 吉安 健登 さん



次に一・三・五学年各学級の代表の子どもたちが、今年度一年間のまとめや来年度への抱負を発表してくれました。その内容(要約)を紹介します。

- 一年一組 上之園 隼 さん：一番楽しかったことは、妙泉寺公園で虫取りをしたことで、あかとんぼをたくさん捕まえることができました。来年は、おにやんまをつかまえたいです。
- 一年二組 内田 直希 さん：一年生で頑張ったことは、先生の話聞くことです。目を見て聞きます。みんなには「静かにしよう」と注意しました。二年生では、先生の話聞いて動ける人になりたいです。
- 一年三組 大塚 結衣歌 さん：一年間で一番頑張ったことは跳び箱です。最初は出来なかつたけど、ぴよん、ぱん、ぴたつの合言葉でできるようにになりました。二年生ではもっと高い段を跳びたいです。
- 一年四組 志水 淳悟 さん：一年間で一番楽しかったのは持久走です。ずっと二位だったけど、一回だけ教頭先生に負けました。お兄ちゃんと練習して速くなったので、教頭先生に勝ちたいです。
- 三年一組 川北 海斗 さん：今年一番心に残っていることは絵を描いたことです。読書感想画は入賞してうれしかった。次は先生にあげて、喜んでもらえるような絵を描きたいです。

●三年二組 渡辺 華鈴 さん：三年生で一番心に残ったことは見学旅行です。シューシーなみかんと防災センターが心に残っています。消防士さんの仕事が好きだと思います。次は他の仕事も調べたいです。

●三年三組 眞田 燈 さん：三年生で頑張ったことは、リコーダーと社会と国語です。四年生になって頑張りたいことは、音楽と国語と算数です。算数は練習問題をしっかりとやりたいです。

●三年四組 矢野 巧真 さん：この一年で一番頑張ったことは漢字です。問題を出してもらって練習し出来るようになりました。四年生になったら、文章題を頑張ろうと思います。

●三年五組 友松 凜香 さん：今まで漢字の五〇問テストで百点を取ることが出来ませんでした。三年生で自学などで頑張りが、百点がとれました。四年生ではさらに練習して、わかるようになりたいです。

●五年一組 高倉 優真 さん：五年生で頑張ったことは自学ノートです。ミニテストで間違えた問題をノートに貼って分析し間違えないようにしました。また、集団行動もできるようにになりました。

●五年二組 吉村 和隆 さん：五年生で頑張ったことは、プールと委員会と縄跳び大会です。そして、六年生になるにあたって、最上級生になるという意識を持って行動していきたいです。

●五年三組 三井 瑠華 さん：集団宿泊では、班長として五分前行動や話の聞き方など、集団行動の大切さを学びました。六年生では最上級生として無言掃除をしっかりと頑張っていきたいです。

●五年四組 齊藤 正悟 さん：この一年で頑張ったことは時間を守ること、家庭科の学習です。六年では、集委員会副委員長になったので、しっかり頑張って学校を引っ張っていきたいと思っています。

このような頼もしい話を聞くことが出来ました。自分を振り返って内容を考えるだけでなく、全校児童の前に立って発表することは決して簡単なことではないからこそ、これらの発表には大変価値があります。十三人の皆さん、ありがとうございます。その後、校長の話で、次のような話をしました。



終わりは始まり

こんな話を修了式でしました。その後、事件は起こります。校歌での起立の際、ザワザワしました。教頭から子どもたちへの注意もあったのですが、「覚悟」の話をした直後、ただだけに、私は怒鳴り上げました。

「覚悟の話をしただろー!! ここは我慢だろー!!」

怒鳴った後に、誰よりも引いていたのは多分私自身です。だいたい感情的に言ってスカッとする事なんてありません。分かっているのに、修行の足りない私です。自分で言っていて、人も自分もモヤモヤさせています。それでも、言ったことは、

昨日の卒業式、卒業生の姿は立派でした。素晴らしい態度で式に臨み、いい顔しながら学校を去って行きました。五年生が在校生を代表して送り出してくれましたが、その態度もとても立派でした。姿勢がしっかりしていて、声もはっきり出ていたし、頼もしかったです。さすが、最上級生です。六年生になる「覚悟」が態度に表れていました。そう、「覚悟」なのです。

「覚悟」とは、「自分は何があっても〇〇らしく振る舞おう」という決心です。例えば、一年生は「自分は来年期があっても二年生らしく振る舞おう」と、強く心に決めることです。それが「覚悟」というものです。では、皆に次の学年への「覚悟」を聞いてみましょう。覚悟がある人は大きく手を上げてください。(ほとんど手が上がる)

さすがですね。でも、もう少し聞きますよ。一つ上の学年になるといことは、一つお兄さん、お姉さんになるといことです。だから、言いたくないこと言い、やりにくいことをやる「勇氣」が必要です。そして、逆に自分の言いたいことややりたいことを「我慢」しなければならぬ場面が増えます。自分の後輩や友達のため、誰かのための「勇氣」と「我慢」があるんです。それでも「覚悟」はありますか?今度は学年ごとに聞きます。(学年によって若干減りましたが、ほとんど手が上がる)

今、覚悟が持てないという人や、「覚悟」のことがよく分からない人もいたかもしれません。この春休みにそこはしっかり考えて欲しいと思います。

私は来年もこの学校にいます。いっしょに頑張っていきたいです。次に会うときは一つ上の学年としての覚悟を持って登校してください。

消えませんが。気を取り直して、最後の日なので正門で子どもたちを送り出していました。子どもたちはいつものように、「ニコニコして」「さよならー!!」と元気に帰って行きます。すると、そうしたやりとりによって私のモヤモヤは消えていったのです。中には「校長先生! 一年間ありがとうございました!」と、わざわざ立ち止まって声をかけてくれる子がいて、涙さえ出そうになりました。こうして、私たちはいつも子どもに元気づけられるのです。

そうした西南小の子どもたちのやさしさは、言葉にも表れています。左記は「合志市ことのは作品コンクール」本校児童入賞作品です。どれも人を思いやるやさしさあふれる言葉です。こうしたやさしさに私たち職員はどれだけ救われてきたでしょうか。入賞した七名のみなさん、改めておめでとうございます。そのやさしさで、これからもまわりの人を元気にして欲しいと思います。

- 【優秀賞】 五年 堤 仁那 さん
 - 自分の言葉に気をつけようそれは文字のように消えないから
 - 【優秀賞】 四年 近藤 希ノ和 さん
 - 【ありがとう】 「だいじょうぶ」その言葉今日何回言った?
 - 【入選】 五年 船崎 夢愛 さん
 - 悪口を言われても言い返さないそんな心がやさしいよ
 - 【入選】 四年 坂本 遥紀 さん
 - 【入選】 四年 坂本 遥紀 さん
 - こんにちばさきどりあいさつうれいいな
 - 【入選】 三年 安楽 望奏 さん
 - 【ありがとう】 えがおにかわるそのしゅん間
 - 【入選】 二年 大久保 知佳 さん
 - ありがとういつもいわれるとうれしいね
 - 【入選】 二年 久島 健翔 さん
 - こまっでないてつたおうかぼくがいるから
- そして、入賞していなくても、作品を書いたのは全校児童です。それぞれがやさしさについて考え、人を元気づけ、癒やす言葉を考えたことは、これからの生活に生かされます。
- 終わりは始まり。
四月からも元気にやっ
ていきましょう!

